

2023年3月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 3月えんだより

3月の聖句「強く、雄々しくあれ。」

<ヨシュア記 1章 5~6節>

今年の冬は厳しい寒さとなり神戸の街も久しぶりに雪景色となりましたが、そのような寒さの中でも各地から梅の便りも聞こえ始め、少しずつ春の訪れが感じられる季節になってきました。また春は、子どもたちにとっても進級や卒園、入学といった大きな変化の季節で、友達との別れや新しい友達との出会いの季節もあります。

もう十数年前のことですが、新しい出会いへの期待に胸を膨らませて高校に進学した長男。それから數ヶ月後にクラスメイトからの暴力によって学校に行けなくなってしまいました。その後、所属していた吹奏楽部の仲間や先輩に支えられ、少し進路を変えて京都にある大学に進むことができました。高校入学時の体験から大学入学時にも大きな不安を抱えていたようですが、その大学でも吹奏楽部で活動し、吹奏楽を通して京都の他の大学の多くの仲間とも出会い、充実した学生生活を送ることができたようです。

大学入学時、下宿への引っ越しを終えて別れる際に「お父さんお母さんとは離れるけど、何かあったらすぐに駆け付けるから。それと、神様には距離がないからいつもそばにいてくださることを覚えておいて。」と声をかけました。長男がそのことをどのくらい思っていたかはわかりませんが、多くの仲間や神様に支えられて過ごした京都時代だったのではないかと思います。新しい人との出会いを怖がるようになっていた長男が、今は人とつながる仕事を選んでいることからそのように確信しています。

こども園の子どもたちもさることながら、保護者の方々、職員にとっても春は別れと出会いの季節です。不安と希望が入り混じった複雑な季節ですが、神様は季節に関係なく、いつも私たちと共にいてくださいます。また、今この時も、季節に関係なく戦争や災害で大きな不安の中で毎日を過ごしておられる人々がいらっしゃいます。過ごす場所は遠く離れていますが、不安の中にいた長男を支えてくださった多くの仲間のように、私たちも支える心を持ち続け、行動ができればと願います。そして何より、この春、こども園から巣立っていく子どもたちが「神様が共にいる」ことを信じて歩んでいけるように、残された一日一日を大切に過ごしたいと思います。

3月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	おおきになった	心はずませて
月の願い	*神様の見守りの中で、おおきになったことを喜び「あそびたいな」「やってみよう」という気持ちや姿を大切に受け止め、過ごしていきたいと思います。	*成長の喜びや新しい生活に向けての不安など様々な思いを感じながら、友だちや保育者と一緒に期待をもって過ごしてほしいと思います。
讃美歌	「つくしのよう」 幼児讃美歌 50	「ありがとう」 幼児讃美歌 II 25